

## ○ ホースの取扱・展開要領

### 1 ホースバッグⅡ型（65mmホース1本+分岐金具）

ホースバッグⅡ型は、放口または延長したホースに接続し、火点へ向かうだけで容易にホースを延長することが可能である。延長は容易であるが手技として押さえておく点は、余剰ホースの整理である。

ここでは、参考として約10mの余剰ホースが生じた際の捌き方を紹介する。



- ① 分岐金具設定位置でバンドを外して分岐金具を前方へ置く。

Ⅱ号バッグのバンドを外して菊水折になっている余剰ホースを整理する。



ここがポイント



- ② 折り返しの束の真ん中を定めて持つ。



- ③ 後方を確認し、後方へ勢い良くホースを投げる。（若しくは引きながら後方へ下がる。）ホースが鋭角に折れていないことを確認し、鋭角な折れがあればその部分を整理する。



- ④ ホース整理が完了したら、すぐさま分岐金具を押さえる。

## 2 ホースバッグI型（40mmホース1本+ノズル）

### (1) 直線延長

ホースバッグI型（40mmホース1本+ノズルをM巻きで設定）は、放口または分岐金具に接続し、火点へ向かうだけで容易に「よれ」のないスムーズな直線延長が可能である。



① 分岐金具に接続する。



② 火点へ向かうだけで「よれ」のないスムーズな直線延長が可能。



③ 放水位置でホースバッグを外して放水体制をとる。

## (2) 余長展開（ホースのループ管理）

余長展開は、最初は手順が複雑で難しいと感じるかもしれない。しかし、仕組みを理解し、ポイントを押さえれば操作は容易である。ポイントを押さえた上で繰り返し訓練して現場で考えずとも出来るように体得することが重要である。

また、M巻きの特性として数m延長した後も40mmホースの最小径で余長展開が可能である。



- ① 分岐金具に接続し、余長ホースを引き出してI号バッグを余長ホース分、前方に置く。

### 注意点

M巻きは反時計回り（左方向）にホースを折り込んでいるため、左後方に展開しないとノズル側のホースが下になり、活動の支障となる。必ず左後方に展開すること。



- ② ノズルのみを前方に展開する。その後、ノズル部で折り返されたループ部分を持ち、延長した余長ホースの左後方に引いてホースを展開する。

### ここがポイント



ノズルで折り返されたループ部分を持つ際は取りこぼしがないように、確実につかむこと。

ここで取りこぼしたままホースを展開してしまうとホースが崩れて活動の支障となる。

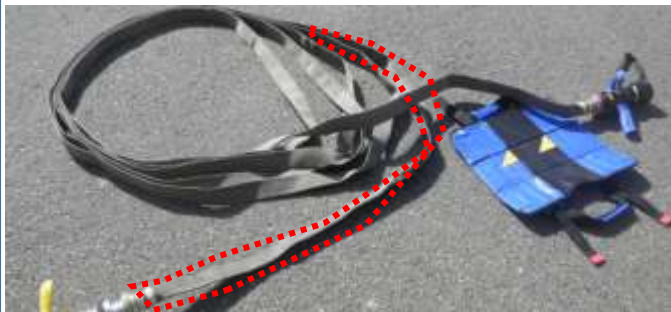


- ③ 展開したホースを整える。  
展開したホースの中央部を左右に広げて真円に近い形にする。



- ④ 展開したホースを確認する。  
この際、分岐金具に接続した余長ホースが一番外側になってることを確認する。

ここがポイント



余長ホースが一番外側になっていないと充水時にホースが暴れてループを崩してしまう場合がある。

展開時にはホースの流れを確認する。



- ⑤ 充水準備。  
この際、ホースが暴れないように足でホースを挟んでおくと効果的である。



- ⑥ 分岐金具のcockを開放し充水する。  
分岐操作のポイントについては次頁に記載。



- ⑦ ノズルを数回、オープン、シャットしてその反動でホースの折れを修正する。  
→準備完了。  
※ 安全管理のため、反動軽減を目的としてオープン、シャットの動作は「噴霧」にて行うこと。

### (3) 分岐操作要領

狭所展開の充水時は、放水を急ぐあまり、分岐金具のコックを勢い良く開放すると、ホースが暴れてループが崩れてしまい、活動に支障をきたしてしまう場合がある。ここでは、充水時の分岐金具の操作について紹介する。



一番外側から2ループ目までは、分岐金具のコックを微開放し、充水する。

この際、分岐操作員は必ず、ホースを確認すること。

**ここがポイント**

分岐金具のコックを握ったままの微調整は難しいので最初のコック操作は、拳でたくようにして開放する。



一番外側から2ループ目まで充水できたら、水の重みでホースの暴れをコントロールできるため、コックを握り、ホースを確認しながら徐々に全開放する。